近藤富男さんが、亡くなられました

（『むくげ通信』311号 2022年3月27日）　　飛田雄一

近藤富男さんが去る 2 月 10 日、亡くなった。彼は私と同学年、神戸大学入学時に最初にあったのが彼だった。1969 年 3 月末の入学手続きのときで、私は農学部園芸農学科、彼は畜産学科だった。

昨年夏、余命半年の宣告を受けていた。奇跡が起こることを祈っていたが、起きてくれなかった。畜産学科の彼だったが、大学では私の属する農学部園芸農学科農業経済教室によく出入りしていた。当時助手の保田茂先生がおられたからだ。また神戸学生青年センターにもよく出入りし、1973 年に「食品公害を追放し安全な食べものを求める会」ができたころにはいっしょに野菜配送トラックの運転手のアルバイトもしていた。同じ頃センターで発足した兵庫県有機農業研究会の機関誌編集もしていて、機関誌の題字「健康の糧」は彼の手書きのレタリングだった。1977 年私の結婚パーティの大きな看板を、レタリングで書いてくれたのも彼だ。私のように墨でばばばと書くのではなく、明朝体の文字を拡大して丁寧に書いてくれた。

当時の名前は谷口富男、結婚時、どちらの姓をなのるかをジャンケンして負けたので近藤富男となった（と言われている）。いっしょに山にも登った。あるとき、槍ヶ岳に登るべく大阪駅で待ち合わせた。夜行列車「ちくま」に乗るためだ。が、来ない。当時ちくまは 2 本あって更に待ったが来ない。仕方なくひとりで槍に登った。堺にでかけていてどうしても間に合わなかったという。携帯電話のない時代、ほんとに困った。ひとり登山となり、おまけに槍の肩でカメラを忘れて頂上に。ひとりなので 360 度のパノラマを十分に心のカメラに焼き付けることができた。下るルートも、パノラマの時間も自由だったのだ。

彼から学んだことも多い。かなり博学なのだ。大学時代、当時最先端の大陸プレート説を嬉々と話してくれたことがある。太平洋プレートに穴が開いていて、それが西に移動するのでその穴からときどきでてきたマグマが島を順々につくったというのである。大感動した。私たちは学校で、今では陳腐な「○○火山帯」説を学んでいたのである。

大学卒業後、中学の国語教師になった。国語教師が比較的なりやすい時代で、農学部卒業生で国語教師になったものが他にもいる。宝塚の中学校教師が長かったが、帰国子女らのための芦屋国際高校、あるいはコリア国際高校の教師も勤めた。

宝塚民族まつりの中心メンバーのひとりで、その運動を担っていた。県外教（兵庫県在日外国人教育研究協議会）のメンバーでもあり、会計担当で会費集めに苦労していたことも聞いている。私がある提案をしたがそれは採用されなかった。

むくげの会には、2018 年 11 月に入会している。退職して余裕ができたからだろうか。政治結社なみに会費の高い（月額 4000 円）むくげの会を支えるために入ってくれた面もあったようだ。会では、ソウルの有機農業学校給食のことをたくさん書いている。日本語における「漢字使用反対派」の彼は、そのレポートも書いている。そのこともありハングルの素晴らしさにぞっこんで、ハングル崇拝が極端なところもあった（？）。むくげ通信の合評会では国語教師ぶりを発揮し、誤字脱字の指摘が徹底している。合評会での彼の点検を受けてからホームページに自分の文章をはりつけていたというメンバーもいる。

彼には人生の師がふたりいた。鄭鴻永さん（1929～2000.1.18）と保田茂先生だ。鄭さん兵庫朝鮮関係研究会の会員で、「朝鮮國獨立、緑の春」の落書きのある西宮甲東園・地下工場跡の発見者でもある。鄭さんの福知山線修復工事朝鮮人犠牲者を追悼する活動にずっと寄り添っていた。私の手元に「神戸水道建設工事及び旧国鉄福知山線改修工事中の殉難者追悼碑を建立する会設立について」（2015 年 2 月）が残っている。会長は近藤さんだ。そこに次の一文を寄せている。

「1993 年 3 月 26 日の朝、鄭鴻永さん(故人)と、むくげの会堀内さんに提供していただいた古い新聞記事のコピーを手に、車で武田尾へ向かった。路上に車を置き、唯一近くにあった喫茶兼食堂に入ってコーヒーを飲みながら記事の内容を確認した。新聞は 1929 年 3 月 28 日付のもので、旧国鉄福知山線改良工事中に、氷結したダイナマイトを焚火で乾かしていたときに誤って爆発させてしまい、周りで暖をとっていた朝鮮半島から働きに来ていた工夫が死傷したという事件を伝えるものであった。この時になって気づいたのだが、偶然にも事故のあった日が 64 年前の 3 月 26 日、

その日だったのである。記事は尹吉文(21)が即死、呉伊根(25)が病院に運ばれる途中で死亡、尹日善(25)とその妻の余時善(19)他が重軽傷を負ったことを報じていた。場所は「川辺郡西谷村桐畑長尾山第六号トンネル入り口」となっていた。／この日に二人だけで心ばかりの祭祀を行って以来、毎年 3 月 26 日には欠かさずここを訪れている。第 6 号トンネルまでは、現在の武田尾駅から歩いて約 20 分、晴れていれば武庫川のせせらぎの音に混じってウグイスの鳴く声が聞こえる全く気持ちの良い道である。」

もうひとりの恩師・保田茂先生は私の恩師でもある。学生センターの前理事長でもあった。有機農業研究の第一人者で、日韓農民交流にも力を注いでおられ、私も何回か韓国に同行させていただいた。昨年末、近藤さんの病状がよくないと聞いていたので、12 月 30 日、保田先生をご案内して近藤さんのお見舞いにいった。起き上がれない状態だったが 30 分近く話することができた。これが最後となってしまった。(写真下)

近藤さんは、会員になる前に 3 回ゲストディに来ていただいている。

1)2006 年 7 月 4 日「２００５年夏・韓国〈統営〉の岡山村」、２）2005 年 4 月 21 日「宝塚と朝鮮人－ひとり芝居再演―」、３）2017 年 11 月 21 日「アミドン―ピソク（碑石）マウルに行ってきました」。

２）は県外教の大会での近藤富男主演の芝居で、鄭鴻永さんがモデルの作品だ。あまりに出来が良かったのでゲストディで再演してもらったものだ。(巻頭の写真)

むくげの会は会員の平等主義が徹底している。通信のメイン論文の執筆も例会の発表も平等に回ってくる。もっとも最近は例会発表がゲストディに振り替わっているが、彼はそれらを充分にこなしていた。

退職後は神戸・南京をむすぶ会のツアーにも参加するようなった。宮内陽子団長の分厚い資料集を事前に一番読み込んで参加するのが彼だった。2019 年の南京／桂林でも、他の団員に、あるいは現地の人々に細かい心遣いをする彼であった。(写真の左が近藤さん、中央が飛田、右が保田茂先生)

むくげ通信に近藤さんの書いた原稿は以下のものだ。他に、自費出版でＡ4　60 頁の『漢字・ハングル・漢字のよみがな 対照表』を 2 冊発行している。膨大な作業量を要する作品だが、そのような作業もできる彼であった。近藤さんのむくげ通信原稿も冊子としてまとめたいと考えている。またご報告したい。私には、彼を失ったこころの隙間がとても大きい。ご冥福をお祈りします。

＜近藤富男・むくげ通信記事目録＞

1) ２８５号（２０１７年１１月）釜山広域市西区アミドン ピソンマウルに行ってきた！
2) ２９１号（２０１８年１１月）ＤＭＺ探訪記―１日目（鉄原その１）
3) ２９２号（２０１９年1月２７日）ＤＭＺ探訪記―２日目（鉄原その２・坡州）
4) ２９３号（２０１９年3月）漢字かなとハングル（１）
5) ２９４号（２０１９年5月２６日）漢字とかなとハングル（２）漢字を使わない日本語をつくりだすために
6) ２９５号（２０１９年7月３１日）漢字とかなとハングル（３）漢字を使わない日本語をつくりだすために
7) ２９６号（２０１９年9月）漢字とかなとハングル（４）漢字を使わない日本語をつくりだすために
8) ２９７号（２０１９年１１月）漢字とかなとハングル（５）漢字を使わない日本語をつくりだすために
9) ２９８号（２０２０年1月）◆映画『天命の城』（2017 年製作／韓国）をみる（１）
10) ２９９号（２０２０年3月）映画『天命の城』（2017 年製作／韓国）をみる（２）
11) ３００号（２０２０年5月）鄭鴻永さんとのこと
12) ３０１号（２０２０年7月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（１）
13) ３０２号（２０２０年9月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（２）
14) ３０３号（２０２０年１１月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（３）
15) ３０４号（２０２１年1月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（４）
16) ３０５号（２０２１年3月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（５）
17) ３０６号（２０２１年5月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（６）
18) ３０７号（２０２１年7月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（７）
19) ３１０号（２０２２年1月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（８）
20) ３１１号（２０２２年3月）ソウル市・京畿道の親環境無償給食（９、了）